



聖歌隊の存在



山元 眞 神父

いろいろと気になることがある。その中のひとつ。教会での聖歌隊の存在。教会というより

典礼の中の聖歌隊の存在、といったほうが正しいかもしれない。デリケートな問題なので、いろんな意見や考えがあるとと思うが、日頃、私が考えていることを書いてみたい。

今の教会に赴任して来てから二度目のクリスマス前だっただろうか。その準備は秋口から始まる。降誕祭の典礼、そのパンフレット、会場、ミサ後のパーティー、侍者（ミサ奉仕者）の

練習、歌の練習……と、クリスマスへの準備はすることがたくさんある。

降誕祭のミサのための聖歌隊の準備もその中のひとつだった。

典礼委員会でこまごまと、いろんなことを検討しながら準備は進んでいく。聖歌隊に関しては……。聖歌の選曲、聖歌隊への参加呼びかけ、聖堂での聖歌隊の位置（場所）などが検討されていく。

聖歌隊の役割の第一は典礼への奉仕である。第二バチカン公

會議（一九六二年～六四年）の典礼改革によって、その後の教会はずいぶん変わった。教会

が初めて教会自身を見つめ直したともいえるこの會議は、当時の世界情勢にもしつかりと目を留めながら、教会の改革を教会自身が求めたのである。

最初に発表された《典礼憲章》では「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である」といわれている。また、そのような典礼の特質が実現されるために、信者が「正しい心構えで

聖なる典礼に近づき、心を声に合わせること」が求められている。

聖歌についていえば、それまでの長い間、聖歌隊中心だった時代から信者共同体全体が聖歌を歌って典礼にあずかる「意識的かつ能動的（行動的）参加」の時代に移っていったのである。

聖歌隊もこの典礼憲章の精神を反映したものであり、典礼に奉仕するものであることが求められている。

クリスマスの聖歌隊の準備に

話を戻そう。

まず、聖歌隊のメンバーが集まらな。その理由。聖歌隊のための席は前方で狭く、さらには信者席に向かって歌うのがよくない。特別な場所で歌うことに抵抗を感じる。祈る気持ちをもてない。声が出ない。練習時間とれない、など…。聖歌隊を作ることも自分が負担になっている。

典礼での聖歌隊の役割を皆で考えた。共同体全体に奉仕する聖歌隊という基本に返って考えた。その結果。この教会の規模では聖歌隊はいらない。歌える人は会衆の中で、会衆と共に歌えばいい。そうすることで、隔たりや違和感がなくなり、「共に」賛美する典礼になったような気がする。

その後の典礼委員会でも、聖歌だけでなく、典礼全般についての見直しが続けられている。今では…主日のミサでは答唱

詩編は独唱されている。復活徹

夜祭では全ての朗読箇所が朗読され、その間の答唱詩編もすべて複数の人たちが独唱されている。毎月一度の「子どもとともにささげるミサ」では子どもが詩編を独唱する。当然、歌うテクニクが優先されるのではなく、言葉の意味が伝わり、会衆がよく祈れるように歌うことが優先される。目立たず、さりげなく、かつ、しっかりと言葉を歌で伝える。各朗読の後、答唱詩編の前に沈黙の時間が大切にされているのは言うまでもない。歌が上手下手の問題ではない。そこに「祈りのところ」があるかどうか問われる。「わたしにできることで奉仕する」という心があれば、そのようなことができる。

上手に歌おうとか、聞かせようとか、わからせようとか、ましては歌わせようとか…雑念があれば典礼は壊れてしまう。

各人が、できるかたちで典礼

に意識的に、行動的に参加する。そのような「各人」が集まって「共同体」ができる。典礼の向かう先、心と身体に向かう先は神。変に人を意識したりすると、その方向が乱れて典礼が壊れてしまう。

典礼を準備するときなどに気になる言葉がある。「出番」。典礼で出番があるとか、ないとか。典礼は音楽会や演奏会ではない。演劇でもない。

「気持ちよかった」という言葉も。歌って自分が気持ちがいいから歌うのか…。皆のころが一つになったときに典礼が成り立ち、「気持ちも」よくなるのだろう。

【教会ホームページ】

[http://www.](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

[yukuhasi.catholic.ne.jp/](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>



株式会社 吉本洋紙店

本店 〒104-0041 東京都中央区新富2-7-4

☎03(3551)4141(代)/2143 FAX03(3551)3939

厚木支店 〒243-0807 神奈川県厚木市金田1017

☎046(223)6931

FAX046(223)6930